

米国産果実 生産増でリンゴ等が価格低下の見通し

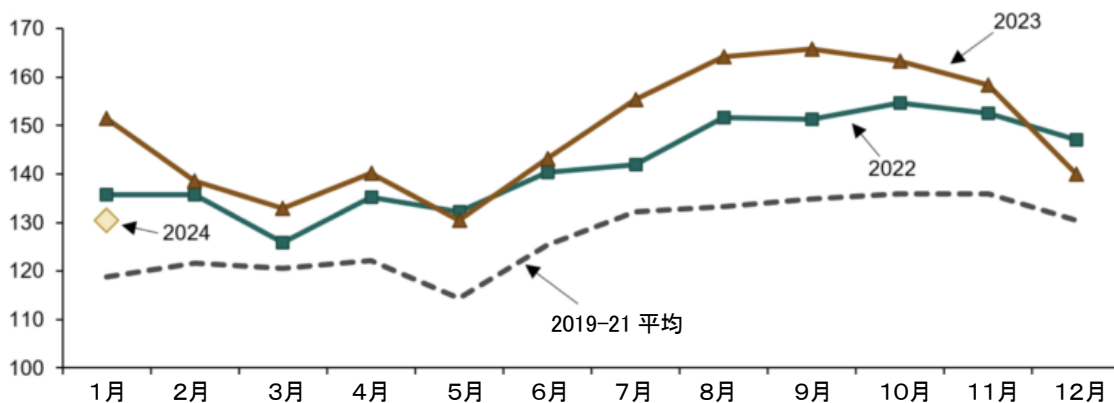
FreshFruitProtal 2024年3月28日

米国の果実生産者が春夏のシーズンに入る中、米国農務省は、一部の主要品目の増収に起因する国内生産者価格の全般的な低下を予測している。

この予測は、2023年後半に始まり、2024年に入っても続いている米国の生産者価格の下落傾向に沿っており、農務省経済調査局(USDA ERS)が米国内のリンゴ、イチゴ、オレンジの収量の増加を予想していることによるものである。

ERSの報告書は、「2024年1月時点の価格指数は2022-23年度(2023年1月)の指数をおよそ3%下回ったが、2019-21年度の1月の平均指数に比べれば10%上回っていた」としている。

果実とナッツ類の生産者価格指数の推移



出典：米国農務省農業統計局の「農産物価格」に基づき同省経済調査局が作成

アーモンド、クルミ、ヘーゼルナッツも、2010年代半ばの記録的に高い価格水準から次第に下落してきている。業界では2024-25年度のナッツ類の収量増加を予想しているおり、価格は低水準にとどまると見られる。カリフォルニア州で水が十分にあることとアーモンドの受粉期間中の天候が良いことが収量の増加に寄与すると見られる。こうした要因により、これらの品目には引き続き価格下落圧力がかかると予想される。

また、リンゴ、イチゴ、オレンジの増収も、生産者価格を昨シーズンよりも下げると見られる。

米国リンゴ協会は、2月1日現在で生鮮市場の在庫量が前年比で36%多く、過去5年間の平均より24%多いと報告している。ERSは、「在庫が増加したことで、リンゴの価格は低く抑えられており、これはワシントン州での2023/24年度の生産量の増加を反映している」としている。

イチゴは、米国産冬イチゴの主要な供給源であるフロリダ州のほか、カリフォルニア州の南部と中部でも1月に豊作となり、価格は前年比14%下落した。

柑橘類の動向

生鮮オレンジも、国内供給量の増加により、平均価格が下がっている。ERSによると、オレンジの価格は12月に上昇したが、1月には下落した。米国産オレンジの供給量は2023/24年度に比べて11%増の277万トンと予測されている。(訳注：ERSの報告書に従って原文記事から一部修正しました。)

しかし、米国産柑橘類全体としては、出荷量は485万トンと1%の減少が見込まれている。生産に大きな打撃を受けると予想される品目の1つはレモンで、ほぼ全量がカリフォルニア州で生産されているが、2023/24年度の出荷量は83万6千トンで、25%減少すると予測されている。タンジェリンの出荷量も90万4千トンで7%の減少と予測されている。(柑橘類の出荷量予測についてはNo.444参照)

訳注：この記事中の「トン」は米トン(ショートトン)であり、1米トン=約0.907トン(メートルトン)です。